

(公社)日本歯科先端技術研究所 九州地区開催 講演会

無歯顎インプラント治療における ピットフォール(落とし穴)とリスク回避

日 時：2026年 12月 19日(土) 18:00～19:30

会 場：福岡県歯科医師会館

〒810-0041 福岡市中央区大名1丁目12番43号

ハイブリッド開催

※非会員は会場参加のみ

講 師：細川 隆司 九州歯科大学 口腔再建リハビリテーション学分野 名誉教授



細川 隆司 名誉教授

略歴

2004年 九州歯科大学教授(口腔再建リハビリテーション学分野)

九州歯科大学附属病院口腔インプラントセンター長

2012年 九州歯科大学歯学部長

2016年 九州歯科大学附属病院副院長

2020年 九州歯科大学副学長

2021年 (公社)日本補綴歯科学会 副理事長

2022年 (公社)日本口腔インプラント学会 理事長

2024年 九州歯科大学名誉教授・医療法人貞心会 理事

歯科補綴学においては、部分床義歯と総義歯は明確に区別されている。大学においても、別の科目として学生教育を行っている。何故か？それは、おそらく残存歯に義歯の維持や支持を求めるかどうかで義歯の設計概念が大きく異なるからであろう。一方、インプラントの場合、少数歯欠損に対する治療と無歯顎に対する治療は特段区別されておらず、全てインプラント治療として一括りにされている。その理由としては、インプラントは全て骨支持であるから部分欠損と無歯顎を区別する必要はない、ということであろう。しかし、私はインプラント治療においても、部分欠損の治療と無歯顎に対する治療は区別して考えた方がよいと思っている。

極論かもしれないが、部分欠損に対するインプラント治療の治療計画立案と無歯顎に対する治療計画立案は、大きく異なったものと言っても良い。両者の違いを生む最大の要因は、同じ歯列弓内の残存歯を含めた補綴治療計画が必要か、必要でないか、ということである。残存歯の存在に縛られず、あとは対合歯との咬合だけを考えれば良いとなると、インプラントの埋入位置や角度、本数、上部構造の選択などインプラント治療の自由度は一気に拡大する。そのため、部分無歯顎では適用できないようなインプラントの配置や傾斜が自由にできることのメリットは少なくない。ただ、その反面、自由度が大きすぎて、臨床医が上部構造の選択やインプラントの埋入計画(本数やポジショニングなど)に迷ってしまうことが良くある。また、顎骨の3次元的な位置の基準となる残存歯が全くないということは、サージカルガイドの位置精度が不安定になりがちでインプラントのポジショニングのエラーが生じやすく、さらには上部構造選択においても患者の求める治療結果との乖離も生じやすい。

従来の補綴装置のように、『うまく行かなかったらやり直しましょう』という訳にはいかないのがインプラント治療である。それだからこそ術前の診査診断が重要であり、それをもとにした上部構造の選択とトップダウントリートメントがインプラント治療成功のカギとなる。

本講演では、無歯顎・多数歯欠損のインプラント治療において陥りやすいピットフォール(落とし穴)に焦点を当て、インプラントオーバーデンチャーやボーンアンカーブリッジそれぞれのリスク回避について、最新のエビデンスをもとに私の臨床経験も含めて論じてみたい。

スケジュール

18:00～19:30 講演(質疑応答含む)

20:00～ 意見交換会

参加費：会員・非会員 無料

お問い合わせ先

日本歯科先端技術研究所事務局

〒105-0014 東京都港区芝1-8-25 芝TKビル4F

TEL:03-5476-2004 FAX:03-5476-2006

E-mail: nissenken@dental.email.ne.jp

<https://www.nissenken.org>

(公社)日本歯科先端技術研究所 九州地区 講演会 参加申込方法

下記必要事項をご記入の上、12月13日までにQRコードまたは日先研ホームページより申込みをお願いします。

(<https://www.nissenken.org/>)

必要記入事項

- ① 氏名 ② 氏名かな ③ 所属医療機関、診療科 ④ 所属医療機関 住所 ⑤ e-mail ⑥ 連絡先電話番号 ⑦ 日先研会員か非会員か
⑧ 参加方法(会場か zoom か) ※非会員は会場参加のみ ⑨ 意見交換会(出席か欠席か)

